

1 主題構成表

主題名 友情信頼, 男女の協力
資料名 言葉のおくり物

■ 内容項目B友情, 信頼

友達と互いに信頼し, 学び合って友情を深め, 異性についても理解しながら, 人間関係を築いていくこと。

■ 価値の分析

- ・児童の友達関係は, 高学年では, 仲の良い友達との信頼関係を深めようとすると同時に, 友達関係での悩みが多くなっていく。このように, 年齢が上がるにつれ, 広がりや深まりが見られる。友達関係は, 児童にとって最も重要な人間関係の 1 つであり, 児童の日常の大半を占める学校生活が楽しく充実したものになるか否かを決定するほど心理的に大きな幅を占めるものである。
- ・高学年においては, 「異性についての理解」が重要な内容として加わる。第二性徴に入り, 異性に対する関心が高まり, 男女間にこれまでなかったトラブルが生じることも多い。互いの違うところを正しく理解させながら男女が協力することのすばらしさについて考えさせることが大切である。このような学習を通して, 互いの人格を尊重し, それぞれがもっている持ち味や特徴を生かしながら協力し合える態度を育てるようにする。

■ 内容項目から見た児童の実態

- ・子どもたちの多くは, 気の合う友達同士で仲間を作り, 友達と集団で活動することが盛んである。高学年になり, これまで以上に友達を意識し, 仲の良い友達との絆を深めている。しかし, 些細なことで友達同士トラブルになる。また, 自分の意思なく行動する仲間関係である。
- ・中学年までは, 男女区別なく遊んでいたが, 高学年になり, 互いの性を意識し始めている。特に遊びで, 男女で別々の行動を取りがちで, 男女グループに分かれ争いに発展することがある。(要因)
- ・友達と一緒に遊ぶだけのものとして捉え, 互いに信頼し, 学び合ってこそ友情が深まるという意識まで至っていない。人と違うことに恐れをもっていて, 人と違うことをできない。
- ・男女の仲の良さが冷やかしの対象になることがあり, 男女の協力の良さに気付いていても他からの目を気にして行動に移せない。また, 男女の違いをよさとしてまでは気付いていない。

■ 資料の分析

- 言葉のおくり物
- ・本資料は, 次の 4 つの場面で構成されている資料である。
- 1, 1 年生のときから同じクラスの一郎とすみ子は, 仲のよさをたかしたちに冷やかされたことにより素直にすることができない。
 - 2, うっかり植木鉢を落としてしまった一郎は, 片付けを手伝おうとするすみ子に八つ当たりをする。
 - 3, 町内の運動会の日。子ども会のリレーで, バトンを落としたたかしを優しく慰める。明るいすみ子の声が一郎の心に響く。
 - 4, 一郎の誕生日, 学級で, すみ子は, 一郎に「言葉のおくり物」をする。変わらぬ友情を願うすみ子の言葉を聞いた一郎は, すみ子と顔を合わせる。
- ・冷やかされて憂鬱になる一郎の気持ちに共感させながら, 3 場面の男女区別なく友情を貫くすみ子の姿勢を捉えさせ, 男女仲よく協力する態度を育て, これからの自分の生活につなげる意欲を高めた。

■ ねらい

性差に関わらずお互いの良さがあることに気付き, 男女共に仲良く学び合い高め合う態度を育てる。

■ 展開の構想

- ・班員の良いところをを採したワークシートを発表し合う。
- ・ワークシートの良さの多さの違いから, 男女の協力の必要性を感じさせて, 課題につなげる。
- ・資料「言葉のおくり物」を読み, 男女仲よく協力することの大切さに気付かせる。
- ・自然の家での体験を振り返り, うまういかなかった経験と, そのときの自分はどう思ったか交流する。
- ・道徳ノートに宿泊研修の反省を基にこれからの生活のことを書き, 男女共に助け合っていこうとする態度で生活しようとする意欲を高める。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- [中心発問] 「すみ子の行動で素晴らしいと思うところはどこですか。自分ならどうしますか。それは, どんな気持ちからですか。」という問いで男女のこだわりなく接するすみ子の行動から, 性差に関わらず個人の良さを認めていることがすみ子の心の強さだと気付くことができるようにする。
- [表現活動] 終末に自分の考えを道徳ノートに書き, 男女仲良く協力するための実践意欲をもたせる。
- [学習形態] 宿泊研修と同じグループでの話し合いを行うことによって, 研修の様々な場面を想起しやすく, お互い同じ体験に関わっていたから, 宿泊研修おいての男女の協力について話し合いやすい。男子が女子の細やかさを疎んじることや, 男子が構わず突き進む行為に同調できない女子の気持ちを話し合うことで, 協力できたときは, どんな気持ちがあったかに気付かせる。また, 相手の性差における行動の特徴が, 悪い結果を招いたかとか, 自分の気持ちを理解してもらう行為をしたかと発問して, お互いの良さを認め合う大切さに気付くことができるようにする。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

学活 宿泊研修の願いをもとう→学活 宿泊研修の振り返りをしよう→道徳科「男女仲良く協力し助け合っ

て」 宿泊研修の計画から振り返りまでの体験したことを, 男女の協力の価値との関連や自分との関わりで互いの人格を尊重して更に協力し合っていこうとする態度を深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇班員の良いところを発表し合う。 ○宿泊研修で見つけた班の友達のよいところを班のみんなに発表しましょう。 ○班の友達のよいところの量は、男女で違いはなかっただろうか。 ・男子（女子）の方が量が少なかった。	・事前にワークシートに友達の良さを書かせておく。 ・自分のためにしてくれたことやよさが同性より異性の方が少ないことから、異性と自分との違いの中に良さがあることを気付いていないことを押さえ、本時の課題へとつなげる。
展開 前 段	◇資料「言葉のおくり物」を読んで話し合う。 男女がもっと仲良く協力するには、どうすればよいのだろうか。 ○すみ子の行動で素晴らしいと思うところはどこですか。それは、どんな気持ちからですか。 ・男子に一郎との仲の良さを冷やかされても気に留めないところ。なぜならそんなことに平然としているから。 ・からかったたかしさんにも優しくできるところ。なぜなら、その相手をいやがることなく優しくできるから。 ・一郎さんの良さをみんなの前で話しているところ。以前のことがあったのに、堂々と述べれる強い人だから。 ◎自分ならどうしますか。それは、どんな気持ちからですか。 ・自分なら、からかわれたら、からかわれた相手をさける。恥ずかしい二度としたくないから。 ・たかしさんを慰めない。いやな思いをさせられた相手だから。 ・からかわれた相手のことの良さを言うことができない。またからかわれるから。 ・すみ子さんは、男女区別なく良さを見つけたり接することができるから。	・教師が範読する。 ・男女のこだわりなく接することがすみ子の強さを捉えさせる。 ・補助発問として、すみ子の気持ちを問いかける。 ・男女の区別なく優しくできることが、すみ子の心の強さだと捉えさせる。 ・男女の区別なく個人の良さを認められることが、すみ子の心の強さだと捉えさせる。 【深めの発問】 ★冷やかされたのに、なぜすみ子さんは優しいことを掛けたのだろう。 ・すみ子の行動から、男女が仲よくすることのよさを感じるようにさせる。
展開 後 段	◇自然の家での体験を振り返り、うまくいかなかった経験と、その時の自分はどう思ったか交流する。 ○宿泊研修の経験から男女の協力について、どんな時に、どんな気持ちになりましたか。 ・野外炊事の時、口げんかになったのは女子が細かいことによく気付いて煩わしいと思ったが、今振り返ると自分が気付かなかったことに女子が気付いたことが素晴らしいと思う。 ・オリエンテーリングの時、男子が勝手に先に行ってしまうと困ってひどいと思ったが、今考えると自分たちの気持ちを伝えるべきだと思った。	・自然の家での体験を振り返ることができるように、活動の様子を写真を提示する。 ・宿泊研修での班での仲間の良さ見つけのグループ討議をする。 ・研修の様々な場面の気持ちを想起させ、うまくいった時や、うまくいかなかった時のそれぞれの仲間に対する気持ちを交流し、その時の相手の気持ちに気付かせる。 ・女子が気付いてくれたことで、上手くいかなかったことはあったかと問う。 ・男子に自分の立場や気持ちを理解してもらおう行動をとったかと問う。
終 末	◇男女仲良く協力するためには、どうするとよいのか、自然の家での反省をもとに考える。 ○自然の家での失敗に気付いたけれど、これからの生活の中で、どんな思いで生活していきたいと思うか。 女子→男子 ・明るく「おはよう。」と言ってくれるところを見習って 挨拶していきたい。 ・外で元気に遊ぶところを見習いたい。 男子→女子 ・細かい仕事を手伝ってくれることに感謝して、自分が役立つ場面で協力していきたい。 ・当番の仕事を手伝ってくれたことがあったので、自分も手伝いたい。	・道徳ノートにこれからの生活のことを書き、男女共に助け合っていこうとする態度で生活しようとする意欲を高める。 〈変容の見届け〉 ・自分の生活を振り返り、男子も女子も同じ一人の人間であることに変わりないことと違いの中にもよさがあることをに気付き、男女共に学び合い高め合う態度で生活すると書いている。 ・自分にないところ良さとして認めていることを書いている。 ・今まで感じられなかった男子は女子の細やかさ等を、女子は男子の元気の良さなどを良さとして認め、互いに助け合いたいと書いている。

5年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
B 友情、 信頼	行時	運動会		
	行時	はりんこ遠足		
	学活	宿泊研修の願いをもとう		
	道徳	言葉のおくり物		
	学活	宿泊研修の振り返りをしよう		
	体育	タグラクビー		
	日常	班活動		
	日常	朝の会 帰りの会		
	日常	掃除の様子		
	日常	よいことみつけ		
	日常	委員会活動の様子		

〈2学期所見〉

評価のしかた 視点 B 友情，信頼

- 道徳の授業 ・すみ子の気持ちを考え，発表することができたか。
 ・宿泊研修での体験を振り返り，うまくいかなかった経験とそのとき相手の気持ちを考えることができたか。
- 日常生活（班活動，朝の会帰りの会，掃除など）
 ・様々な活動の中で，男女意識することなく協力し合って生活しているか。